# 令和元年度学校評価報告書（全日制）

1　本年度の重点目標

（１）全道・全国に通じる進学校としての確立を進める
（２）地域の信頼に応える生徒の社会性の育成を進める
（３）生徒理解の基づく教育相談（ガイダンス機能・カウンセリング機能）を充実させる
（４）管内唯一の理数科設置校として、SSH事業の取組を通して学校力の向上を図る
（５）学校の教育活動に関する効果的な情報の発信に努め、選ばれる学校づくりを進める

2　自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

| 評価項目 | 自己評価の結果 | 学校関係者評価の結果 |
|---|---|---|
| 総　　務 | ・校内においては、総務を中心に９０周年記念事業の実施・運営を行った。他分掌との分担、連携も行い、昨年度準備が遅れた分について、補いながら開催することができた。<br>・奨学金の説明会を外部講師を招き実施することができた。年々複雑になっている制度であり、保護者に講評を得た。 | ・９０周年記念事業について、準備等が遅れた面もあったが、内容については出席者や地域から高い評価を得た。 |
| 改善方策 | ・奨学金については、本来業務とは言いがたい面もあるが、進学を目指す生徒や保護者の心配事項となっている状況である。正しい情報を提供でき、教員の業務を整理するためにも、外部講師の活用等工夫を継続していく必要がある。 | |
| 学習指導 | ・めざす生徒像・めざす学校像の実現に向け、職員会議や研修を重ね、教育課程編成に向けた準備がすすんだ。<br>・朝読書の方法等についての見直しなど、次年度の課題となっている。 | ・ＳＳＨなどの取組や理数科の取組など<br>どのような生徒を育成しようとしているか、明確になっており、中学生や地域に届いている。 |
| 改善方策 | ・朝読書の意義を職員間で十分に共有できるよう、導入当初の目的や実際の効果について明確化していくことが必要である。 | |
| 生徒指導 | ・行事における熱中症対策を徹底して行うことができた。<br>・不登校気味の生徒への対処に追われる状況がある。年々増える傾向は他校でも同様だが、未然に防ぐための方策考案が急務である。 | ・いじめの問題や不登校問題など未然に防ぐ対策をいかに講じられるかが重要である。 |
| 改善方策 | ・教育相談について、担任の先生方やスクールカウンセラーによる面談等で対処している状況から、「予防」となる教職員全体での取組を計画していく必要がある。 | |
| 進路指導 | ・大学入試の新テストに向けた準備や情報提供に努めてきたが、結果として試験内容が急遽変更になり、生徒には不安が高まった。 | ・進路指導は本校において、重要な役割を担っている。国の情勢により、困難な一年であったが、今後とも適切な指導を行ってもらいたい。 |
| 改善方策 | ・ポートフォリオの活用を含め、新テスト対策として準備を進めてきたことを軸とし、分掌が主導する進路指導が求められている。進路シラバスの見直しやガイダンスの充実を図る。 | |
| ＳＳＨ<br>・理数科 | ・第Ⅱ期に入り、課題研究の意義への理解は深まっている。多くの職員で関わり、生徒の探究活動を支援する体制づくりをする共通理解を得た。一方で適切な計画づくりや評価の難しさもあり、次年度に向けてさらなる改善が必要である。<br>・理数科の入試倍率が今年度１．４倍まで高まった。全道的に同様の傾向がある。探究活動等の教育活動の魅力が注目されていることが理由の一つと分析している。 | ・理数科の入試倍率の向上等、ＳＳＨによる教育活動の成果と考えられる。より一層の充実を期待する。 |
| 改善方策 | ・普通科での探究活動プログラム等、全校体制での指導のあり方と評価の方法について研修を行い、成果の向上を図る。 | |
| いじめ<br>防止 | ・いじめ防止対策委員会の定期的な開催を　することができた。 | ・いじめの未然防止・早期発見の必要性　に対する意見が出された。 |
| 改善方策 | ・定期的な委員会の開催と研修により職員の意識を高めるとともに、明確となった課題（担当者や担任に偏らない面談や相談）について、次年度の計画において改善を図る。 | |
| 公表方法 | ・学校だよりやＷｅｂページに掲載するとともに、学校評議員会、ＰＴＡ役員会で口頭説明する。 | |